

IV 評価・分析

1 ルーブリック

年度当初の5月と年度末の2月に、全校生徒を対象にルーブリックによる自己評価を行った。年度当初は、ほとんどの生徒がすべての項目において、C評価が30%程度、B評価が50～60%程度という評価であった。しかし、一年間の活動を通して大幅な成長が見られるようになった。各項目においてC評価が大幅に減少し、A評価以上の評価がおおむね40%を超えている。また、判断力・コミュニケーション力においては熟達レベルであるS評価をつけている生徒もおり、生徒の変容を感じることができた。5月の時点では、1年生はC評価を多くつける生徒が多く見られる一方、本年度までに探究活動を行っている2、3年生では、5月の時点でA評価を付ける生徒も見られるなど、積み重ねによる成長が見られた。外部人材との協働や探究活動を通して、生徒の力が伸長したことはもちろん、成功体験の積み重ねが、生徒の自己肯定感を高めたことも影響しているのではないかと考えられる。来年度も、生徒の力を育成することはもちろん、生徒一人一人が、やりがいや自己有用感を感じることでできる探究活動を行ってきたい。

令和3年度 みさごう・せんたんプロジェクト ルーブリック () R () 番 氏 名 ()

学習成果	レベルC 初心者・初級者レベル <知覚・理解>	レベルB 自立・学習者レベル <応用・分析>	レベルA 熟達・達人レベル <統合・普及>	評価理由	
				4月	2月
地域活性化プロジェクトプランの計画	計画力	サポートを受けながら、プロジェクト全体の概要を理解している。	自分のプロジェクトに必要な情報を収集し、自ら計画を立てることができる。	自らが、成功する計画を立てるとともに、他者のプロジェクトについても的確なアドバイスをすることができる。	2月 計画を活動の状況に応じて修正しながら、楽しくけじめをつけた活動ができた。班の保管人のサポートがあまりできなかった。来年はそこも頑張っていきたい。(A)
	判断力	サポートを受けながら、自分の地域の特徴を理解している。	自分のプロジェクトの現状や課題について必要な情報を収集し、適切に判断することができる。	プロジェクト達成のために総合的な情報に基づき、全体的な立場で考察・判断することができる。	2月 リーダーとして地域連携課題訓練などの活動に取り組む中で、全体的な立場に立って考察、判断してプロジェクトを成功させることができたから。(S)
	4月	36%	52%	12%	
	2月	4%	60%	36%	
地域活性化プロジェクトの実践	実践力	サポートを受けながら、プロジェクト達成のために自分自身がすべきことを理解している。	プロジェクトの目的と自分の役割を理解して、知識や経験を活用して自発的に行動している。	プロジェクト全体を総合的に把握して、これまでの経緯を生かしながら、リーダーとして活動することができる。	2月 新しく取り組み始めた防災カードゲームのルールを考えたり、実際にカードを作ったりするのは大変だったけれど、その時その時に必要なことをすることができた。(A)
	調整力	プロジェクトチームのメンバーには、様々な立場や意見があることを知っている。	多様な意見や立場の違いを理解し、周囲の人々や物事との関係を調整することができる。	幅広い年代の人や、自分とは異なる意見の人などとの様々な意見や立場の違いを尊重し、協力しながら活動することができる。	2月 うどん作りの手順や工程についてグループのメンバーで何度も話し合いを行うことで、手際よく作業を進めることができるようになりました。(A)
	4月	32%	52%	16%	
	2月	12%	40%	48%	
プレゼンテーション	コミュニケーション力	プロジェクトの内容を理解し、相手に伝えることができる。	自分が伝えたいことを適切に伝えるための方法を学び、相手に伝えることができる。	単に情報を発信するだけでなく、他者を動かすことができるような情報発信をすることができる。	2月 様々な発信方法を模索し、効果的な発信方法を見つけて、班での活動や地域連携イベントでの説明などをうまく行うことができたから。(S)
	4月	32%	60%	8%	
	2月	12%	44%	36%	

2 未咲輝-SENTAN-発表会（オンライン）での感想

(1) 海の応援隊

- ・地域の人との関わりがとても深いプロジェクトだなと思いました。
- ・好きなことをプロジェクトにする案が良いと思った。
- ・二人の活動によって、三崎の海の魅力を再確認することができました。僕もプロジェクトに参加したいと思いました。
- ・好きなことをやらせてくれ、サポートしてくれる学校はなかなかない
- ・魚が綺麗にさばっていてすごかったです。また、地域の方との交流も広がっていて楽しそうだと感じました。
- ・学校では教わらない事を地域の方から自然に学ぶ、素晴らしい町ですね。
- ・地元民では当たり前だと思うこの伊方の海も、県外から見たらとても魅力ある豊かな海だということを知り発見してくれています。大好きな釣りを通して発信しており、今後も楽しみにしています。ありがとう。
- ・こんな楽しい学生生活を送りたかったです。
- ・好きなことを突き詰めて人との出会い、釣果の拡大、料理の上達、地域の人との交流につながり、素晴らしいと思います。他の生徒も取り組みやすい好事例かと。
- ・地元生ですが知らない魚がいることに驚きました。素材を無駄にしないということを大切にすることはとても良い行いだと思います。二人の話し方が上手くて聞く方も楽しかったです。

(2) EGFキャンパスアワード (CRI-HOUSE)

- ・とても面白く、興味があります。利用者として使ってみたいし、卒業後OG・OBとしても関わりたいと思えるほど魅力的なプロジェクトだと思いました。
- ・高校生でここまで地域について考える事が出来るのはとてもすごいことだと思った。
- ・活動計画や収支内容、高校生が運営できない時のことも考えられていてすごいなと思いました。
- ・しっかりビジョン、計画が練られ秀逸でした。実現性の部分で実現したい想いの強さと誰に協力してもらうか、それだけだと思います。
- ・小さな町で自分たちができることを一生懸命探していて頼もしくなった。

(3) EGFキャンパスアワード (ちりめん)

- ・データを多く使っていて分かりやすかったです。
- ・人口減少に食料を絡めていて、とても工夫されていていいと思いました。
- ・企画の方向性が明確であり、課題解決に対しても期待ができる。食品という場での勝負は大変ではあるが、参入しやすい分ハードルは低く、実現性は高いのでは。
- ・しらす×うどんの組み合わせは想像出来なかったので面白いと思いました。減塩を作るという考えはすごい良いと思いました。
- ・ちりめん→うどんという発想が面白く、人の健康や地域の魅力化へのアイデアがよく考えられていて良いと思いました。ぜひ商品化して食べさせていただきたいです。

(4) WWL

- ・自分自身が今のままではダメだと思った。
- ・様々な活動を通してたくさんの経験や成長があったと思います。それを自分の活動や生活に生かす事が出来たのであれば、紛れもない努力の賜物だと思います。
- ・日本国内での交流だけにとどまらず、国際的な交流によって参加した学生が成長できる素晴らしい活動だなと感じました。
- ・国内のみならず国際的にも活動していることに驚いた。色々な意見交換で得た知識を得て三崎高校からの情報発信を続けてほしいと思った。とても良い発表だった。
- ・目的のために一生懸命活動する先輩の姿に憧れました。
- ・世界や全国に目を通すことで、今までなかった概念や考え方、理念などを知れるのでとて

も良い集まりだと思いました。三崎高校はそのような取組を活発的に行っているのだからもどんどんそのようなアクティブな活動をしていくべきだと思います。とても良い発表だと思いました。どんなことでも前向きなのでよかったです。

- ・自分のやりたいことを地域や、世界に広げ、そのアイデアが大きく影響したり、関わるきっかけを作れたりすると教えてくれたように感じます。
- ・知らない人と意見を言い合い、自分を高めることができるWWLはいいなと思いました
- ・年々の活動内容を知れて、こういうことを三崎高校はやって来たのだと実感しました。国際的な活動にも力を入れていることに他の学校とは違う魅力を感じました。
- ・同じ高校生とは思えないくらいの活動内容で、自分がとても小さく見えます。そのくらい一人一人がすばらしい活動とそれに見合った成果で、とてもよい活動報告でした。

(5) アート班

- ・防潮堤の絵を描いているのは知っていましたが、ジオラマや公園の改装をしているとは知りませんでした。今回知ることができて良かったです。
- ・公園を復活させるアイデアがとても素敵です。またジオラマのクオリティも高く反省点も含めて発表してくれるのは良いなと思いました。そしてゆるキャラの顔がとても可愛くて良いですね。防波堤のイラストが、迫力があってすばらしいなと思いました。
- ・アートでも地域を活性化できることを知れました。
- ・防波堤アートのクオリティがすごくて、毎回ワクワクしています。
- ・アートの力は大きく、人々を元気付けることができ、もっと三崎を盛り上げられるように活動をしていって欲しいです。
- ・公園などの今伊方町であるものを有効活用しようとしているのが、とても感心させられました。その他にもジオラマ作成などをするなどして、復興だけではなく、ものを作成するなどをして立派な班だと思いました。一つ意見を加えたとしたらジオラマ作成も商品開発班と共同で作っていくのも面白みがあっていいかなと思います。
- ・アート班の作品は2回ぐらい見たことあるんですが、それを見た時ときはすごくて感動しました。
- ・アートで三崎の町を彩って殺風景を変えていて、地元住民の私から見ても、変わったなと思いました。
- ・防波堤のところに迫力あるスケッチをしており、見た人がすごい、写真撮ろうってなる作品ができているなと思いました。
- ・色々な大人に交渉したり、課題にもぶつかっていましたが、前向きに捉えて頑張っていたりしていたのが好印象でした。

(6) 情報・防災班

- ・防災班はRPGやカードゲームで誰でも楽しめながら災害について学べるものを作っていてとてもすごいと思いました。
- ・分かりやすい解説で危機感を持つことができた。色々な工夫がされていることが分かった。
- ・前年度の失敗を活かしていたのが良かった。
- ・今までにはないゲーム、カードゲームの企画は良いアイデアだと思いました。
- ・自然災害はいつ起きるのか分からないので学べるのが出来てよいと思いました。面白く楽しく学べるのでいいなと思いました。しっかり身に付けたいです。
- ・RPGゲームとかカードゲームが思ったより本格的ですすごいと思いました。
- ・防災の意識付けのために、多くの手段を使って様々な世代にアプローチしているなと感じました。
- ・分かりやすいだけでなく、みんなが進んでやりたいと思える取組(ゲームなど)を思い付くのがすごい。
- ・地域の方の命を守ることに繋がるとも価値のある活動だと思った。
- ・高校だけじゃなくて、小、中学校も含めた合同避難訓練などを行っているのが、良いと思

いました。

(7) P R 班

- ・素敵な動画でした。
- ・YouTube などの SNS を使って学校、この地域をアピールするのはとても今の時代に効果的で良いと思った。
- ・もともと興味があったんですが、ますます興味がわきました。たくさんの人に知ってもらえるようにする、とても魅力的です。
- ・自分も学校紹介のプロジェクトをしているので、参考にしようと思いました。
- ・P R のために動画を撮ったり編集したりするなど、技術を必要とするものを扱うのは大変だと思うけれど、これからも頑張って活動してもらいたいです。
- ・コロナ禍の中、三崎の良さを P R で伝えようとしている姿勢に感動しました。
- ・P R 班に入りたくなりました。動画もまた見返したくなる発表でした。
- ・歴史、地域文化、地学、植物など自然科学系の P R はどうか。
- ・魅力を発信するために動画を作っていることを知る事ができました。また愛大生とのコラボダンスもすごく良かったので、参加したいです。
- ・今後、各プロジェクトや各班と横のつながりをすることで、何倍もの成果が出ると期待しています、頑張ってください。

(8) カフェ班

- ・カフェのどら焼きはとても美味しそうで、またカフェを開催できて色々な人に三崎のカフェの良さをしってほしいと思いました。
- ・新しいみさこうカフェにまた足を運びたいと思いました。
- ・とてもおいしそうだった。食品を提供出来るのは他にない魅力があってとても良いと思った。
- ・コロナ禍でカフェを開くのが難しい中、テイクアウトなどでの工夫をして少しでも多くの人に食べてもらえるようにしているのがとてもすごいなと思いました。
- ・どら焼きがとても美味しそうだった。まだ、みさこうカフェに行ったことがないので行ってみたいです。
- ・学校とは全然違う環境で接客をしたり、経験出来ないようなことにチャレンジしたりしていてすごいと思いました。
- ・町内放送などをしていて、たくさんの人に分かりやすくカフェのオープンを知らせていてすごいと思いました。
- ・実際どら焼きを食べたことがあるのですが、おいしかったです。これからの活動も楽しみにしています。
- ・高校でカフェを開けるなんてすごいしとても楽しそうだなあと思った。地域の食材を使ってるのも素敵。
- ・カフェ班は先輩たちの努力の結晶なので絶対になくしたくありません。なので僕は僕のできることを絶対に使いたいと思います。今回の発表は他のみんなのおかげで成功しました！

(9) 商品開発班

- ・様々なものをたくさん作っていてその発想力がとてもすごいと思いました。
- ・地元にあるものを使って沢山の商品を開発しているのにびっくりしました。
- ・燻製に挑戦したり、アロマオイルを作ったり、ジャムを作ったり、だいたいゼリーを作ったり、しらすとうどんでちりめんを作ったり、ビジコンに参加したりしていて一人一人がしっかり働いていたのでとても良かったです。
- ・商品開発していく上で地域のために貢献しているのがすごいと思った。
- ・色々な発想があって、興味深い発表でした。
- ・それぞれの班での個性が光っていて素敵です。そして何より楽しそうなのが伝わりました。

- ・食品も織り物もアロマオイルもめっちゃオシャレ！難しい事ばかりやっててすごい。ちりめんさん楽しそう。
- ・食品だけでなく、アロマオイルなどの日常生活で使えるような実用的な物も開発しているのは大いに人の役に立つと思うので、引き続き様々な開発に期待したいと思った。
- ・ちりめんうどん、健康に良さそう。完成したら通販で買いたい。
- ・来年商品開発班に入ろうと思っていたのですがあまり活動内容を知らなかったので今回の発表で知れてよかったです。

(10) ツアー班

- ・三崎のガイドブックを作るために実際にお店などで取材をしていて、とてもすごいなと思いました。ほかにも海外の人にもわかるように英語での音声ガイドなどを行っているのもすごいなと思いました。
- ・サイクリングをしていた人もいて、景色の良さに触れ合えるツアー班は、とても楽しそうだなと思いました。
- ・なかなか調べることの無い歴史や、実際に三崎を体験できるサイクリングなどを通して伝えられるのは良いと思うし、海外の人たちのことも考えた音声ガイド班というものもあり、気遣いもある良い班だなと思いました。
- ・町の良さなどを知ってもらえていいと思いました。SNSも活用していていいなと思いました。
- ・サイクリングだったり三崎のことがすぐ分かるブックがあったりして、初めて来た人にとっても良いなと思いました。三崎の良い所も再確認出来ました。
- ・三崎についてもっと知りたくなりました。時間があればサイクリングしたいです。
- ・伽藍山の音声ガイドが素晴らしい。歴史のガイドブックが欲しいと思いました。
- ・三崎の良さを知れるいい機会でした。ツアー班に入ってみたくくなりました。
- ・サイクリングのイメージが強かったけど、音声ガイドや、歴史的な場所のマップを作るなど色々なことをしてるんだなと思いました。
- ・ツアー班の活動は、自分の中でとても興味のある活動で、伊方町の良い所を肌で感じられるツアープランがとても面白いと思いました。

3 目標と実施状況

本事業の研究開発開始時に八つの目標を設定した。

そのうち、「本構想において実現する成果目標」は三つある。

一つ目の「生徒による3年間の地域協働活動における成果報告書の提出率100%」という目標においては、3年生全員が成果報告書を提出しており、提出率は100%となっている。

二つ目の「高校卒業後地元※への就職率60%」という目標においては、今年度は、卒業生26名のうち就職希望者が6名、地元への就職者数2名で、地元への就職率は33%となり、目標を下回った(※地元…愛媛県南予地域)。就職希望者数が少なかったことや、遠方から入学した生徒や公務員希望の生徒がいたことなどが理由として挙げられる。しかし、愛媛県内への就職者数は6名、県内への就職率は100%で、事業を開始した令和元年度から3年連続で100%となっている。また、生徒の出身地への就職者数の割合は83%であり、遠方から入学してきた生徒たちの多くがその出身地で就職している。本校での地域協働活動を通じて伊方町だけではなく、愛媛県内や自らの出身地域への愛着を強める生徒が増加することは、本校の取組の成果の一つであると考えている。今後は、そのような生徒が自らの出身地に戻り活躍して本校及び伊方町の関係人口として関わりを持ち続けてくれることを期待している。そうすることで、三つ目の「高等学校卒業後10年以内の地元への就職率30%」という目標を達成できるよう、伊方町や地域団体等と協働して今後のシステム構築に力を入れていきたい。

「地域人材を育成する高校としての活動指標における目標」も三つある。

「地域と協働した取組を含む研究授業の年間実施回数5回」という目標においては、英語科における研究授業1回に留まった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、外部人材との交流活動が行いにくかったという社会的情勢の影響もあったが、各教科においてどの単元において

地域と協働した取組を行っていくのが、授業数等の関係から計画的に取り組むことが難しかったという課題も見られた。この課題を受け、来年度からは年度当初に作成する各教科の年間指導計画において、あらかじめ地域と協働した取組を行う単元を設定し明記することで計画的な実施を推進したいと考えている。また、単独の教科・科目での実施が難しい場合には、教科等横断的な取組を行うなど、学校の現状に合わせた柔軟な取組を行っていきたい。

「地域と協働した取組に関する年間研究発表回数5回」という目標においては、校内の研究発表会に加え、校外での発表会等にも積極的に参加し、10回の研究発表を行い、幅広い年代や立場の方に本校の取組を知ってもらうことができた。また、大分県で開催された楽しみながら環境について考えるイベント「おおいたうつくし感謝祭」等の地域連携活動も3回実施し、現在も活動の幅を広げている。特に、中学生一日体験入学や学校見学に来た中学生が本校の地域協働活動に強い関心を持つことが多く、本校の魅力の創出につながっていると感じている。

「学校フェイスブックの1か月当たりの平均更新回数15回」においては、4月から2月の間で111回、月平均9回更新した。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、多くの学校行事が無観客での実施となってしまったが、ライブ配信など新たな取組を取り入れることで、これまで以上に多くの人に本校の情報を届けることができています。

「地域人材を育成する地域としての活動指標における目標」は二つある。

「外部人材として参画する民間等の団体数10団体」という目標においては、現在11の団体に参画してもらっている。本事業開始当初の参画団体は8団体であり、3年間の事業を通して多くの団体との連携を進めることができた。今後も多くの団体と協働しながら、生徒の実態に合わせた特色ある教育活動を推進していきたい。

「ブーメラン人材へのUターン支援プログラムの実施回数3回」という目標においては、4回の取組を行った。全校生徒を対象とした地域企業の合同説明会の実施や、2年生、3年生を対象とした株式会社伊予銀行と協働しての起業家育成金融セミナーの実施「EGFキャンパスアワード2021-2022」や「第2回八幡浜ソーシャルビジネスチャレンジコンペ」などへの応募を通して、地域理解を深め、郷土愛を高めることができた。

全校生徒125人に対して延べ180人以上の生徒が、地域と協働しながら発表会やコンテスト、研修会等に参加しており、自ら課題を発見し、その解決に向けて、探究することのできる生徒が増加した。このことから、本事業の継続的な取組が、将来ブーメラン人材となりうる生徒の育成につながっていることが分かる。

4 次年度以降の課題及び改善点

これまでの地域との連携による探究活動が活発化し深度が深まっていくにつれ、生徒・教員ともに負担が増加するということが課題となっている。また、今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで本校が主催してきた活動や地域でのイベント等が中止になり、探究活動の場が制限されるという課題が見られた。

負担が増加するという課題の改善策として、昨年度より全学年で共通して、木曜日の6時間目を「総合的な探究の時間」に、7時間目を「未咲輝学」の時間としてカリキュラムを編成した。こうすることで翌週以降の授業と入れ替え、「総合的な探究の時間」もしくは「未咲輝学」の時間を2時間連続で実施できるようにした。全ての研究班で連携をとる必要はあるが、探究活動が放課後等の時間にまで及ぶ回数を減少させることができた。さらに、今後は年間指導計画作成時に地域協働活動を行う単元を設定するなど、各教科の中で地域協働活動探究カリキュラムの作成を推進することで、生徒の探究活動の自走性を高めるとともに、進路指導とも連携させることで時間を有効に活用できるようになると考えている。

また、昨年度に引き続き本年度も地域行事やイベント等が中止になってしまったため、研究自体も進められなかったが、地域活動の増加単位制度について研究していきたい。地域行事等への参加に応じて、「総合的な探究の時間」もしくは「未咲輝学」において単位増を認めることで、生徒の、より主体的な行事参加を促すとともに、負担感の軽減につながるのではないかと考えている。これらの改善策を実行するためには、地域関係者との協議や校内の調整等が必要になるため、関係者で話し合いを進めて導入に向けて検討していきたい。来年度は、まず生徒が参加する可能性のある地域活動や地域行事をリストアップし、それぞれの活動について、その責任者や活動

時間等を明確にしていきたい。そうすることで、活動への計画的な参加や、増加単位制度のスムーズな導入を行いたい。

「未咲輝学」では、学年ごとにテーマを設定して探究活動に取り組んだ。1年生は「地域理解」をテーマに、ブイアートの作成や地域の名所・史跡見学などの活動を地域人材と連携して行った。2年生は、「地域課題の発見・解決」をテーマに、RESASを用いた研究を進め、その研究結果を「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募し、1グループが地方一次審査を通過した。3年生は、「ブーメラン人材として」をテーマに、ビジネスプランの作成を行った。株式会社伊予銀行と連携し、講師を招いて金融セミナーを開催することで、起業家精神の醸成を図った。本年度で開設2年目ということもあり、生徒の実情を踏まえた上でどのように効果的な学習内容を設定、指導していくのかということが課題となった。来年度は今年度の実践を基に計画を立てるとともに、外部人材とのより積極的な連携や校内研修の機会を増やすことで、負担の軽減や効果的なシステムの構築を図りたい。

昨年度より始まった授業であることに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で当初予定した授業内容の変更を余儀なくされた部分もあった。そのような状況の中で、生徒の実情を踏まえた上でどのように効果的な学習内容を設定、指導していくのかということが課題となった。しかし、本年度は昨年度の経験も踏まえてオンラインでの活動やICTを活用した学習活動を効果的に取り入れ、実践活動とバランスを取り入れた学習活動を行っていくことで、十分に探究的な活動を実践することができた。来年度は開設3年目になり、一つのサイクルを終えることができるため、これまでの実践を振り返り、より効果的な活動となるよう調整していきたい。そのためにも、外部人材とのより積極的な連携や校内研修の機会を増やしていきたい。

各種行事の中止による生徒の学びの場の減少については、昨年度より研究を進めてきたオンラインの積極的な活用により、さらなる改善を図りたい。オンラインは万能ではなく、実体験を通してしか学べないことも多い。しかし、オンラインの特徴である、即時性、広範性というものは、地域の学校にとっては大きな教育資源となる。オンラインでの活動をきっかけに、実体験につなげていくこともできる。実体験の活動とオンラインによる活動の長所と短所をよく理解し、それぞれを補完するような取組を行ったり、状況によって使い分けたりすることで、それぞれの活動から最大限の教育効果を生み出すことができる。ウィズコロナ時代、情報化社会といわれる現代において求められるのは、最大限の効果を生み出すことができるように取捨選択し、必要に応じて使いこなす能力であると考え。教職員、生徒共にオンラインの効果的な活用技術を身に付けることで、本校の探究活動をより効果的なものにできるようにしていきたい。